

臨床実習準備プログラム

[M4-70077P1]

1 臨床実習の概要

第4学年以降の診療参加型臨床実習に安全に参加できるよう、感染制御、医療安全、電子カルテ入力等の特定の診療科に限定されない共通知識・技能を学ぶ。

また、第3学年までの学修を基盤に、全ての学生が行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学、EBM等を臨床実習で実践できるよう、case study やカンファレンス等を通して必要な基礎知識、技能および態度を身につける。

2 金沢医科大学の学修成果（アウトカム）

- ①豊かな人間性と倫理観
- ②生涯学習
- ③医学知識と技術（診療の実践）
- ④患者中心・チーム医療とコミュニケーション能力
- ⑤地域医療・社会貢献・国際貢献
- ⑥科学的態度・探究心

3 臨床実習の学修成果（アウトカム）：

※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学の到達目標との関連を示す。

- 標準予防策(スタンダード・プリコーション)の必要性を説明し、実践できる。(④)
- 個人及び組織における患者安全管理の重要性を理解し、行動できる。(③④)
- 診療録の重要性を理解し、適切に記載し取り扱うことができる。(③)
- 患者の家庭的、社会的背景を理解し、選択された治療法にそって患者に適切な助言を与えることができるよう一定の見解をもつことができる(①④)
- 国内及び国際社会の中で規定される医療の役割と医療体制について概要を理解している。(③⑤)
- 診療現場における倫理的問題について、倫理学の考え方に依拠し、分析した上で、自身の考えを述べることができる。(①④)
- データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。(②③⑥)
- 患者の個別性や状況を考慮してエビデンスの適用について考えることができる。(①③)

4 学 習 方 略

クリニカルシュミレーションセンターにおける演習

行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学、EBM 等の case study、カンファレンス

5 事前事後学修について

(事前学修)

- ・シラバスの資料があればあらかじめ目を通しておくこと。
- ・Procedures Consult を参考に、ガウンテクニック等の予習をしておくこと。

(事後学修)

- ・PubMed 等の文書検索・学習ツールを、各診療科における臨床実習で実践すること。
※図書館提供の EBM ツールにて閲覧可能。
- ・医療安全ハンドブックを常に携帯し、各診療科における臨床実習にて随時確認する。
特に「患者さんの権利」「金沢医科大学病院臨床における倫理方針」「感染対策マニュアル」は一度目を通すこと。

【自己学習（事前事後学修）に必要な時間】1日あたり予習：30分、復習：30分

6 課題（実習中の課題やレポート等）に関するフィードバック

担当教員より適宜フィードバックを行う。

7 評 価

成績評価は、各診療科における臨床実習にて評価する。

ただし、当プログラムの出席状況は標準試験受験資格における臨床実習出席率に含む。

8 実習スケジュール

別項参照

9 教 育 担 当 者

実習責任者：第4学年主任

担当教員：実習スケジュールを参照

10 参 考 図 書 ・ 文 献

医療安全ハンドブック（オリエンテーションにて配付）

Procedures Consult「ガウンテクニック」「手袋装着」「行動科学入門」

本学イントラネット>ライブ・VOD「院内感染防止に関する教育講演会」

本学イントラネット>図書館>「EBM ツール」

<https://www2.kanazawa-med.ac.jp/~library/index.htm#EBM%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AB>